



軒の勾配は20/100と緩やかで、軒柱や縦といを排除した設計が広々とした空間を創り出している。

## 住まいは文化

先人たちが遺してくれた住まいづくりの知恵

### 第8回 広島県 竹原の町家・竹鶴家

温暖な気候、  
京都との繋がりと  
塩田による財力  
好条件に育まれた町家が  
保存される町並み



瀬戸内の温暖な気候に恵まれた竹原は、平安時代には京都の下鴨神社の荘園として、江戸時代には入浜式塩田による製塩業で繁栄しました。回船や酒造業も盛んで、裕大な町人層によって江戸時代から明治時代にかけて重厚な本瓦葺、塗屋造の町家が数多く取り入れられました。建築的にも華やかで優れた意匠が数多く取り入れられています。本町通り沿いの町筋を中心に質の高い町家が保存され、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

製塩と酒造を営む老舗は優美な入母屋妻入の外観。竹鶴家は、江戸中期から「小笹屋」の屋号で製塩と酒造を営み、現在も酒造業を営んでいます。雨が少ない気候を活かして、外観も耐候性より意匠的な部分が多く見られ、三連の屋根と灰漆喰の壁や格子が印象的です。「竹原格子」と称されることもあるように、竹原の町家では出格子、平格子、組子格子など多様な格子が見られ、この竹鶴家にも幾種類もの格子が使われています。竹原は温暖な気候ながらも瀬戸内海に面しているため、台風や大潮の時に備え、家全体がしっかりと土台で嵩(かさ)上げされています。

#### 茶道に則った庭と茶室町人文化の粋が息づく

竹鶴家には、樹齢を重ねた松を中心とした庭が造られ、その庭を囲むように数寄屋風座敷と新座敷が配られています。庭へ接する廊下には、柱を設けず、壁の中に柱を隠し、そこから腕木を延ばして軒を支える工夫がなされています。このため視界は遮られず庭と一体化した伸びやかな空間が広がっています。



あくまでもシンプルな茶室。  
水屋への出入りに使う襦は、襦絵も引手金具もない「坊主襦」が使われている。



蹲踞(つくば)や灯笼、飛び石、塵穴(ちりあひ)など、茶庭としての要素を踏まえて造られた庭。

茶室には、正式な茶会を催せる水屋が隣接して造られています。内装には、幅の薄い鴨居や素朴な織部床など粋なしつらいがほとんどされ、成熟した文化様式が際立っています。この茶室は代々赤ちゃんを生むための産室としても使われてきたといい、住む人の生活に密着した場でもあったことがうかがえます。同じ空間を様々な用途に使い分ける、合理的な町人文化の現れなのでしょう。